

会議報告書（議事概要）

会議の名称	「健康都市おおぶ」推進会議（令和7年度 第1回）
日 時	令和7年6月10日（火）13時30分～14時40分
場 所	大府市役所5階 全員協議会室
出席者 （敬称略）	荒井 秀典（国立長寿医療研究センター） 伊藤 浩明（あいち小児保健医療総合センター） 竹中 徳哉（大府市医師団） 大野 心み（大府市歯科医師会） 榊原 明美（大府市薬剤師会） 竹内 涼子（公募委員） 坪井 信二（愛知県知多保健所） 平川 仁尚（あいち健康の森健康科学総合センター） 林 史子（大府市校長会） 岩井 幸子（大府市スポーツ推進委員会） 加藤 まり（人間環境大学） 藤田 静子（至学館大学） 事務局（健康未来政策課・健康増進課）8名
欠席者 （敬称略）	齋藤 雅茂（日本福祉大学）

内 容

事務局： お忙しいところお集まりいただきお礼申し上げます。本日は、半数以上の委員が出席しているため、「健康都市おおぶ」推進会議条例第6条第2項の規定に基づき、令和7年度第1回「健康都市おおぶ」推進会議を開催する。今年度から知多保健所今井委員に代わり坪井委員に、人間環境大学肥後委員に代わり加藤委員にご出席いただいている。なお、齋藤委員からは欠席の連絡をいただいている。始めに、次第の1、市長の岡村秀人及び荒井会長から挨拶をいただく。

1 あいさつ

市長： 令和7年度第1回健康都市おおぶ推進会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。委員の皆様におかれましては、昨年度から引き続き着任いただいている方、そして新たにご就任いただいた方々におかれても、大府市の健康都市推進にあたり、今後ともご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。本市の健康都市施策の推進にあたり、昨年度は「健康都市おおぶ みんなの健康づくり推進プラン」の中間見直しを行った。委員の皆様には多大なるご尽力をいただき、改めて感謝申し上げます。今後は、新たなプランに基づき、施策を進めていく予定である。本日の議題にも挙がっている「健康増進・交流センター」についても、重要な取組の一つである。このセンターは、あらゆる世代が生涯を通じて健康でアクティブに活躍できる

まちづくりを目指すもの。先週日曜日には、起工式を執り行ったところであり、本
日ご出席の、国立長寿医療研究センターの荒井理事長、また校長会の林校長先生に
も出席賜りお礼申し上げます。このセンターは、市民の健康づくりや多世代交流の場
となるとともに、長期欠席児童生徒の居場所となる第2教育支援センターとしての
役割も併せ持つ、複合的な施設である。詳細については後ほど説明があるが、市民
にとってより身近で親しみやすい健康と交流の場となるよう、ハード・ソフトの両
面から着実に準備を進めてまいる。来年秋の開館を予定しているので、ぜひ皆様
におかれては、この新しい施設の完成を楽しみにしていただきたい。本日の会議では、
「健康都市おおぶ みんなの健康づくり推進プラン」の進捗状況をはじめ、健康増
進・交流センターの整備状況や、本年度の健康都市推進施策について報告を行う。
委員の皆様には、忌憚のないご意見・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

会 長： 令和7年度第1回「健康都市おおぶ」推進会議の開催にあたり、会長として一言
ご挨拶申し上げます。昨年度この会議で議論した「健康都市おおぶ みんなの健康づく
り推進プラン2020-2030」の改訂版が完成した。本プランでは、健康増進、食育
推進、自死対策について大府市の施策の方向性が明示されており、これまでのデー
タについても振り返りがなされている。データの分析によれば、愛知県内の他自治
体や全国平均と比較しても、大府市は良好な水準にあると評価されている。今後、
さらなる改善を図るため、委員の皆様からの貴重なご意見を賜りながら、会議を進
めていきたい。また、市長からも言及があったように、「健康増進・交流センター」
については、今週の日曜日に無事起工式が執り行われ、来年秋の開館を予定してい
る。大府市の取り組みが他自治体の参考となるよう、委員の皆様のご協力をお願い
したい。

2 議題

(1)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プランの進捗について

事 務 局： 【資料1】説明

委 員： 「歯と口腔」に関する項目のうち、歯周病については中間見直し時点よりもやや
悪化しており、歯周病の有病率が増加している。資料8ページにおけるR6年度
「51.7%」という数値の内訳について、左側のグラフを見ると、節目年齢である40
歳、50歳、60歳、70歳の歯周病割合は少なく、45歳、55歳、65歳の年齢層
で数値が高い。年齢ごとの受診率に大きな違いがあるのか。

事 務 局： それぞれの年代で50~60名ほどが市の歯科健診補助を利用して健診を受けてお
り、年齢ごとに大きな差はない。対象となる母集団は各年齢層ごとにおおむね
1,000人程度であることから、受診率が低いため、今後は受診促進のための啓発が
必要と考えている。

会 長： 健康寿命については、算出方法はどのようになっているか。また、他の自治体と

比べてどうかというデータはあるか。

事務局： 市町村単位では、国と同じ方法で算出することが難しいことから、本市では要介護2以上の方を「日常生活動作が自立していない」として算出している。国との比較はプラン改訂版冊子の7ページに記載している。

会長： メタボリックシンドロームの該当者・予備群者が増加している状況について、コロナ禍における過度な自粛が一因であると考えられるが、令和5年度には改善が見られるのではないかと期待している。この間に啓発等の取組は実施していたか。

事務局： 働く世代の生活習慣病予防として、健康経営という視点でアプローチをしている。市内の健康経営実践企業のサポートや、まだ健康経営の取組を始めていない企業への啓発等を行っている。

会長： 市内で健康経営に取り組んでいる企業は増えているか。

事務局： 増えている。

会長： 会議資料には直近2か年ほどのデータが記載されているが、健康施策の評価においては、長期的な流れを見ることのほうが重要であると考えられるため、可能であれば3~4年程度のスパンでのデータを示していただけると、より分かりやすくなる。また、栄養に関して、低出生体重児は将来的にメタボリックシンドロームのリスクが高まると言われている。このような点に関して、大府市として何らかの啓発活動は行っているのだろうか。

事務局： 栄養との関連が大きいいため、喫煙している妊産婦に対しては禁煙の周知を行っている。また、母子手帳の交付時には、全ての妊婦に対して30分以上の面接を実施し、栄養に関する問診や気になる点についての聞き取りを行い、それぞれの状況に応じて個別に指導を行っている。さらに、妊婦向けには「パパ&ママサロン」を実施しており、栄養に関する内容も含めた形で展開している。

会長： 多くの自治体において中学校でのクラブ活動の参加率が低下している傾向にあると考えられるが、大府市における中学校のクラブ活動の現状について確認したい。また、全国平均と同様に、特に運動系クラブへの参加者数が減少している可能性がある中で、それを補完するために市として実施している取組について、簡単に説明してほしい。

事務局： 運動部に入っている中学生の割合については、現時点で具体的なデータを示すことはできないが、市内には4つの中学校があり、部活動指導員等の数は年々増加しており、部活動に取り組みやすい環境は着実に整いつつあると考えている。

会長： 環境が整ってきているのであれば、実際にクラブ活動を行っている生徒数についても把握し、そうしたデータを今後の施策検討に活用すべき。また、中学校における運動習慣の有無は、将来の成人期におけるメタボリスクにも影響を及ぼすと考えられるため、若い時期から運動に親しむことの重要性は大きい。もちろん、運動が苦手な生徒も一定数存在し、そうした生徒に積極的に運動に取り組んでもらうこと

は簡単ではないが、全体として運動に取り組みやすい環境づくりを市として進めていただきたい。また、そうした環境整備のために、必要な予算をしっかりと確保・活用すべきである。

(2) 健康増進・交流センターの整備について

事務局： 【資料2】説明

委員： この施設は非常にユニークで、大きな可能性を秘めた施設だと感じている。あいち健康プラザとは立地も近いため、今後このような場を活用して、コンテンツの提供などさせていただきたい。この施設では、具体的にどのような主体が健康関連の教育活動等を担うのかについても関心がある。

事務局： 本施設を活用して何らかの事業をご展開いただける場合には、ぜひご協力をお願いしたい。研究機関や民間企業など、さまざまな団体の参画を通じて、市民の健康づくりを支える施設として機能することを期待している。今後、大府市に対して提案をいただければ、内容に応じて検討させていただきたい。

委員： 民間団体等の参加についても、幅広く受け入れを想定しているとのことだが、自らの企画をこの施設で実施したいという希望があれば、柔軟に対応できる施設になるのか。たとえば、医療的ケアを必要とする子どもたちを支援する NPO 団体が、イベント等をこの施設で開催したいと考える場合もあると思われる。

事務局： 現段階では具体的な取組の実施可否を判断する段階には至っていないものの、前向きに検討していきたい。

会長： 公民館の役割分担を明確にしつつ、本施設では多世代交流や健康増進に資する活動、さらにデジタル技術や ICT を活用した健康支援、認知症予防のための科学的エビデンスに基づく介入など、さまざまな可能性があると考えている。ただし、これらの具体的なプログラム内容については、今後さらに市で検討を進めていく必要がある。また、学校現場においても、市の施策と学校の課題がうまく合致すれば、施設を有効に活用できるのではないかと考えている。引き続き、さまざまなアイデアをお寄せいただければ幸いである。

(3) 今年度の健康都市推進施策について

事務局： 【資料3】説明

委員： 健康経営の推進について、先日常滑商工会議所で開催された健康カフェに参加した。参加のきっかけは、「健康経営優良法人」の申請において該当項目がチェックできるという案内があり、今回の申請に必要な内容だったためである。今後、健康経営に取り組む企業を増やしていくにあたっては、このように企業側の関心を引くようなアプローチも有効ではないかと感じた。

会 長： クールシェアスポットについては、非常に重要な取組だと考えている。市のホームページにも公開されており、公共施設は31か所、民間施設は14か所となっている。大府市内での分布についても、ある程度満遍なく展開されているのか。

事 務 局： 公民館や児童・老人福祉センターなどで一定カバーできている。加えて民間施設では郵便局やスギ薬局、パチンコ店など、幅広い場所で熱中症対策の対応がなされている。

会 長： パチンコ店が市民にとって本当に気軽に立ち寄れる場所であるのかは疑問。また、公民館にしても、特別な用事がなければ訪れにくい印象がある。例えば、イオンなど買い物のついでに立ち寄ることができ、しばらく滞在できるような場所であれば、より活用されやすいと考える。薬局についても、処方箋の受け取りや買い物の機会に合わせて立ち寄れるため、アクセスしやすい。一方で、公民館がクールシェアスポットであると言われても、利用者が一人で訪れた際に、そこで何をするのかという戸惑いもある。図書館のような機能があれば別だが、そうではない場合の利便性に疑問が残る。

事 務 局： 公民館内には図書スペースが設置されており、子どもたちが学習をしたり、高齢者が新聞を読んだりして活用されている。

会 長： 高齢者は熱中症リスクが特に高いため、例えば一人暮らしの高齢者が気軽に立ち寄れるような配慮が必要ではないかと感じる。

事 務 局： 現在、市では「暑い日は無理に外出しないように」と啓発を行っているが、どうしても外出が必要な場合に、安心して休憩できる場所としてクールシェアスポットを設けている。

事 務 局： 今年度は、スポットの施設担当者向けにセミナーを開催し、来館者への対応方法を学んでいただく。また、啓発用のポスターや、今年度からは県から提供のあったのぼり旗を用いて、広く市民への周知を図っていく。

会 長： 暑いときには外出しないという選択肢も重要ではあるが、家にいる場合でも適切にエアコンを使用しているかが非常に重要である。エアコンをつけずに過ごしていると、かえって熱中症のリスクが高まる。たとえば、市として電力会社と連携し、ある一定の外気温を超えた際に、家庭の電力使用量をもとにエアコンの使用状況を把握し、使用量が著しく少ない世帯には個別訪問を行うといった対策も検討してはどうか。

事 務 局： 今年度の取組としては、民生委員による一人暮らし高齢者への訪問時に熱中症への注意喚起を行っているほか、ケアマネジャー向けの講習会でも、実際に訪問する際には家庭の様子を見て啓発を行うように伝えている。加えて、電力使用量などのデータを活用した、より効果的な取組についても今後検討していく。

会 長： マンツーマンでの対応や人を介した支援の重要性は十分に理解しているが、それだけでは不十分であると考えている。テクノロジーをうまく活用し、熱中症による死亡者を大府市からゼロにすることを目指して、さまざまな手法を市として積極的に検討していただきたい。実際に、電力消費量のデータを活用したフレイル予防の

取組なども、他地域では始まっていることから、企業との連携も視野に入れてほしい。

会 長： アイケアについて、子どもの視機能の保護は非常に重要であり、最近ではスマートフォンやゲーム機などの画面を見る時間が長くなっていることが、近視の増加に大きく影響している。世界的にも、画面の視聴時間と視機能の低下との関係を示すデータが出ており、特に子どもにとっては重要な課題である。ただし、「スマホを使わないように」と指導するのは、家庭の中で説得力を持たせて実行することが難しい場合もある。こうした現実を踏まえ、市としても有効な対応策について検討していただければありがたい。

会 長： 本日は、健康づくり推進プランについて、さまざまな議論を行った。計画期間も残り5年となることから、次期プランの策定に向けて、引き続き委員の先生方からのご意見を伺いながら、市においてはデータの分析も含めて、事務局でしっかりと対応を進めていただきたい。

3 その他

事 務 局： 本日は、会議の中で活発なご意見や課題提起をいただき、誠にありがとうございました。皆様からいただいたご意見等を丁寧にかみ砕きながら、今後の施策に反映できるよう検討を進めていく。引き続き、ご協力を賜りたい。本日はどうもありがとうございました。

事 務 局： 第2回の開催を2/3（火）に予定している。場所は本日と同じ、全員協議会室である。会議の日が近づいたら、改めてご案内させていただくので、よろしくお願い申し上げます。以上で、令和7年度第1回「健康都市おおぶ」推進会議を終了する。

以上